

第9回
手づくりの演奏会

オペラ

作曲 高木 東六
台本 村山 知義

音楽監督・指揮
河津政實
演出
坂井宏光

振付・衣装
小林真由美
舞台監督・舞台美術
水端裕巳
照明
宮坂正彦
音響
野村義典

演出助手
斧研雅子・清水香織
副指揮
春日俊也
合唱指揮
宮脇豊・小木曾暁
制作協力
赤い靴記念文化事業団

題字
池上信子

春香

しゅんこう

Chun Hiang
OPERA IN 4 ACTS (IN JAPANESE)

春香(チュニャン)
永吉伴子
夢龍(モンロン)
布施雅也

房子(フンヂヤ)
須山智文
使道 / 許奉事(サド/ヒョホンサ)
藤森秀則
月梅(ウォルメ)
唐沢澄恵
香丹(ヒヤンダン)
奥村桂子

娘
宮下智恵
春日好枝子
湯沢洋子

管弦楽
伊那フィルハーモニー交響楽団
合唱
春香合唱団
舞踊
春香舞踊団

オペラ「春香」全四幕
日本語上演

2012年 6月3日(日)
開場 14:30 / 開演 15:00
長野県伊那文化会館 大ホール

主催 伊那「春香」実行委員会・長野県伊那文化会館
共催 長野県・長野県教育委員会・伊那市・伊那市教育委員会

춘향

全席指定 ■ S席 ■ A席 ■
4,000円 3,000円

※未就学児の入場はご遠慮願います。

【チケット販売】
長野県伊那文化会館 Tel.0265-73-8822
伊那市生涯学習センター Tel.0265-78-5801

【お問い合わせ】
オペラ「春香」実行委員会
北沢(伊那市生涯学習センター内) Tel.0265-78-5801

解説

朝鮮半島（韓国・北朝鮮）を代表する古典文学『春香伝』を基に、伊那市名誉市民の故 高木東六氏（享年102歳）が1947年に作曲した。48年から49年にかけて東京と大阪で上演され、超満員の大成功を収めた。その後、同半島の南北国家分裂などの影響で一度も上演されたことが無く”幻のオペラ”となったが、2002年に横浜市が会場となったサッカーW杯日韓大会の関連事業の一つとして、53年ぶりに再上演された。『春香』の曲は19世紀後半のヴェリズモの作曲家の作品に似通った響きがあり、訴える力が強く、かつ親しみやすく、洒落た感じの作品となっている。また、朝鮮の伝統的3拍子の音型を、高木氏独特の手法でうまく取り込んだものとなっている。

高木氏は昭和13年頃に、村山知義氏が演出した『春香伝』の舞台を築地小劇場で見た時に「オペラの要素があるな」と思い、演出者の村山氏へオペラの台本の作成を依頼した。作曲は昭和14、5年より書き始め、太平洋戦争が始まる前までに第三幕まで書き上げてあったが、当時の住居（東京上大崎）が昭和20年5月の空襲で焼け、『春香』の第一作目の楽譜も全て灰となってしまった。

その後、知り合いの紹介で長野県伊那町（現・伊那市）に疎開し、足掛け七年を伊那で過ごした。その疎開先で子ども達にピアノを教えていた高木氏の元へ、戦後間もない昭和21年のはじめ、まだ対日感情が決して良くなかった時代に、在日朝鮮人連盟の方が訪れ「もう一度『春香』を作曲してくれないか」と熱心に依頼。高木氏は朝鮮の人たちの音楽を愛する心に打たれ依頼を快諾し、朝鮮の音楽的要素を盛り込んだ作曲に全力を注いだ。高木氏が作曲に専念するために、在日の人たちはその間の生活費の面倒を見てくれたという。また、山田耕筰氏は作曲に打ち込む高木氏のもとへ、当時は入手困難であった五線紙を送った。こうして昭和22年、日本人が創った戦後初めての創作オペラ『春香』は誕生した。

今回は、高木氏が「第二の故郷」と語り、オペラ『春香』の作曲を行った伊那の地で開催する初めての市民オペラであり、64年の時を越え上演される、意義深い公演となっている。

物語

場所は韓国・全羅北道の南原（ナムオン）。時代は18世紀中葉、李朝の頃。桃の花咲く五月、山紫水明の地・南原の楼閣・広寒楼で、名門貴族の誉れ高い官吏の息子・李夢龍（18歳）が、妓生の娘で教養に満ちた美しい乙女・春香（16歳）を見そめ、婚約を交わす。ところがこの秋、夢龍の父が都に栄転することになり、まだ独立を許されない夢龍も同伴することに。思わぬ別離に、胸をさく悲しみに包まれる春香。夢龍は三年後、立派に任官し、再会することを約束して都に赴いた。時は移り、南原に赴任して来たのが好色無頼な代官の使道。早速、美妓の誉れ高い春香を我がものにしたようと迫るが、春香は「正しき操こそ知る」と頑として拒絶。面目を失った使道は春香を鞭打ちに処し、牢獄に投じた。足枷をはめられ獄中に暮らすこと3年。明日は使道の誕生祝宴が催され、席上、特別の見世物として春香が打ち首の刑に処せられる手筈に。その前夜、乞食姿の若者が春香を訪ねてくる。その人こそ、都で科擧の試験に合格し、王の隠密派遣使となって南原に戻って来た夢龍であった。待ちに待った再会を果たした二人は、永遠の愛を誓い合う。しかし、春香の身体は長い牢獄生活のために衰弱しその命の火は燃え尽きようとしていた。そして、最愛の夢龍の腕に抱かれ静かに息をひきとるのだった。

基となっている物語『春香伝』では春香と夢龍が末永く幸せに暮らすHappyエンドとなるのだが、台本を依頼された村山氏は「グランドオペラは伝統的に悲劇的な結末で終わることが多い」という慣例に習って悲劇形の『春香』台本を書き、高木氏が作曲した。今回のオペラ『春香』は64年前の初演時の原譜の音楽を再現することに重きをおき、悲劇の結末となっている。（2002年 横浜公演の際には、Happyエンドヴァージョンで上演された。）

春香

オペラ

— 全四幕 日本語上演 —

春香と夢龍の身分を越えた恋。
「韓国版 ロミオとジュリエット」ともいわれる
朝鮮半島古典の最高傑作。



〈春香〉永吉 伴子 ソプラノ

二期会公演『夕陽の影』・日本バレー協会公演『よさこい節』・新国立劇場『おさん』他多数のオペラで活躍。ビロードの様な美声と類い希なる音楽性を持ち、長身でドラマに相応しい美しい舞台姿は常に高い評価を受ける。二期会会員。



〈夢龍〉布施 雅也 テノール

新国立劇場『ロメオ』『アイヴグ』『軍人たち』他多数のオペラに出演。また、バレー『3人は愛の舞』、『メロディ』他多くの日本歌曲を中心としたコンサート等も積極的に行っている。日本声楽アカデミー会員。聖徳大学声楽学部兼任講師。



〈房子〉須山 智文



〈使道(許奉事)〉藤森 秀則

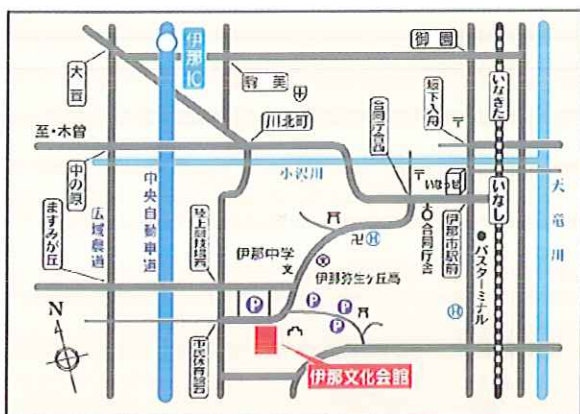


〈月梅〉唐沢 澄恵



〈春丹〉奥村 桂子

※ 本場の際、周辺店舗等への駐車は、遠慮ください。
JR飯田線伊那市駅から徒歩20分、車で5分。
国道361号線権兵衛トンネル伊那市側出口から車で10分。
中央自動車道「伊那IC」から車で15分、「駒ヶ根IC」から16分。



長野県伊那文化会館 | 伊那市西町5776(春日公園内)
TEL.0265-73-8822